

# 若葉台西中だより

横浜市立若葉台西中学校

第 2 4 号

平成 1 7 年 3 月 2 5 日 ( 金 ) 発行

校長 田 中 明 子

横浜市旭区若葉台四丁目 3 4 - 1

TEL 9 2 1 - 0 2 8 1

FAX 9 2 2 - 5 9 8 6

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/wakabadainishi/>

## 第一回若葉台地区小・中学校再編検討委員会設置準備委員会が開催されました

とき：平成 1 7 年 3 月 1 8 日 ( 金 ) 午後 5 時 ~ 7 時 2 0 分

ところ：若葉台東中学校 第一会議室

出席者：横浜市教育委員会より...

内田学校計画課課長、須藤係長、伊藤吏員、鈴木旭区学校支援・連携担当課長  
地域 (『まち』とともに歩む学校づくり懇話会) より...

山岸若葉台連合自治会会長、長沼事務局長、皆川筆頭副会長 (第一自治会会長)、  
太田副会長 (西自治会会長)、松本若葉台地区社会福祉協議会監事

5 校 P T A より...

祖父江東小 P T A 会長、花木北小 P T A 会長、濱西小 P T A 会長、  
鈴木東中 P T A 会長、長坂西中 P T A 副会長

5 校より...

赤羽東小校長、金子北小校長、井上西小校長、鈴木東中校長、田中西中校長

話し合われた主な内容：

- ・検討委員会の名称を『若葉台地区小・中学校再編検討委員会』とし、事務局は教育委員会が担当する。
- ・委員構成は教育委員会・区役所代表、各校代表、各 P T A 代表、地域代表による。学校再編を検討する段階と、施設の跡利用を検討する段階とで関係者が異なるので、委員構成を替えるという考え方もある。
- ・委員の人数は、意見交換が活発になされ、協議が充実したものになるような数であることがよい。あまり大人数でも協議が深まらないだろう。
- ・組織代表としての委員であるとの考え方によるなら、委員の公募制はとらなくても良いのではないか。  
しかし、若葉台の有為な人材の活用を図ることは望ましいので、委員が専門家の支援を得られるような形をとることは有効だろう。
- ・広報活動の工夫と意見収集に努めるシステムを充実させることにより、傍聴制をとらなくても開かれた会にすることは可能だろう。
- ・第 1 回『若葉台地区小・中学校再編検討委員会』を 5 月 28 日 ( 土 ) に地域ケアプラザにて開催する。
- ・新校の開校年度を先に設定して検討を進めるやり方と、必要事項の検討が済んだところで開校に至るやり方が考えられる。検討不十分での見切り発車は避けたいが、開校時期が何時までも明らかにならないのも、不安をつのらせ憶測を生むことになる。ある程度検討が進んで見通しがついた時点で、新校開校時期について目途をつけ、公表する方が良いのではないだろうか。
- ・予算措置を必要とする場合、市会の審議・決定が必要。予算執行の前年度には決定されていなければならないという段取りになる。
- ・霧が丘地区の小学校 3 校の統合が、16 年度検討委員会設置で 18 年度開校というのは最短コースだと思われる。
- ・どんな特色をもった学校にするのかの検討が最重要課題。資料収集・提供など教育委員会の支援がえられる。

第 2 回準備委員会の日程：

4 月 1 3 日 ( 水 ) 午後 7 時 ~ 協議が順調に進行すれば準備委員会は 2 回で終了の予定。  
年度をまたぐことになり、準備委員会のメンバーが交替せざるを得ないこともあるが、協議の継続性を考慮して、可能な限り第 1 回出席者が第 2 回にも出席する。

